

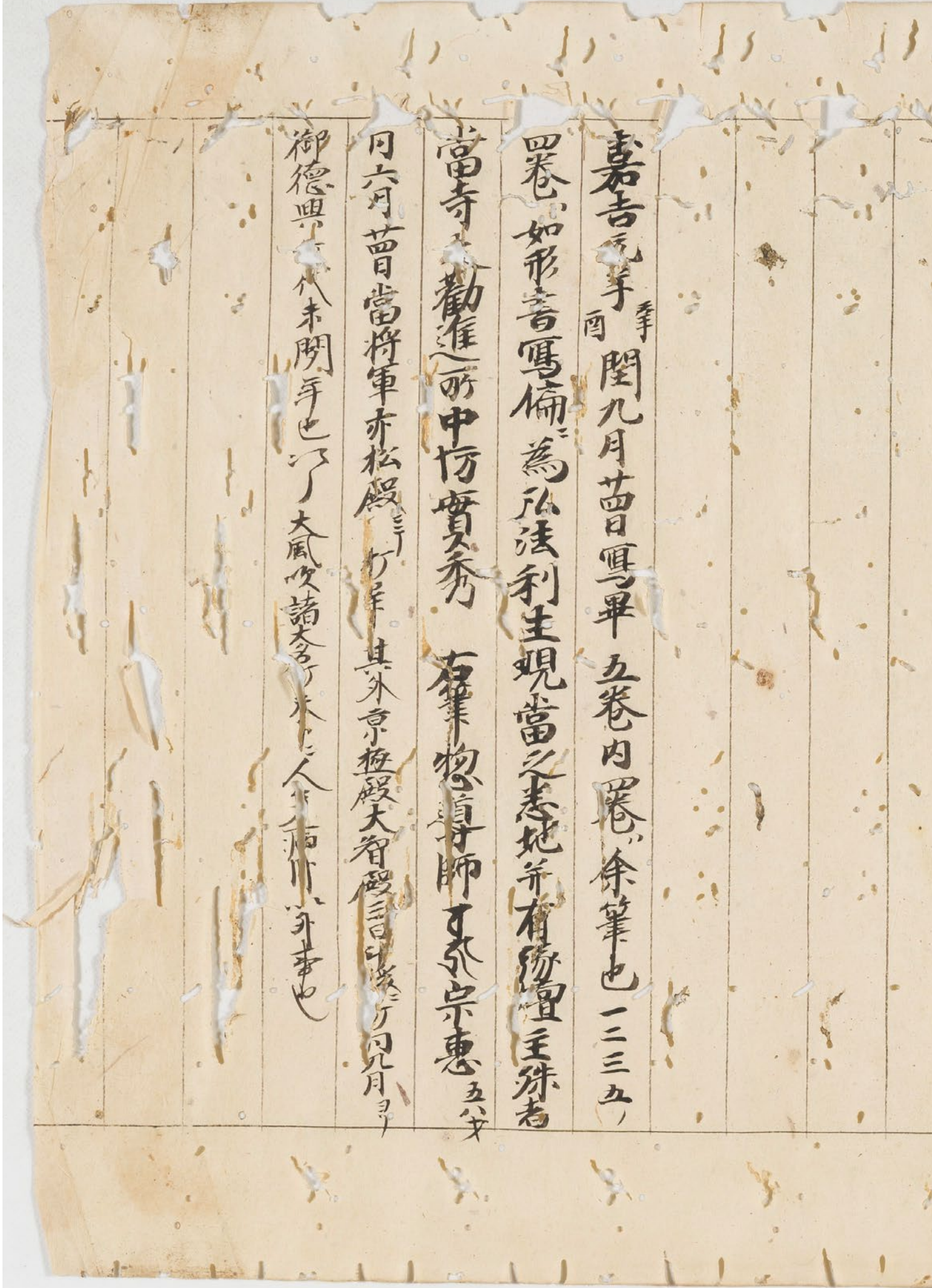
当麻寺古經典にみえるひとつの奥書

歴史研究室では、2016 年度より当麻寺が所蔵する古經典の調査を継続的に実施しています。その調査過程で嘉吉の乱に関わる奥書を発見しました。古經典の奥書には、嘉吉元年(1441) 6 月に赤松満祐による將軍足利義教の暗殺が発生し、その場に居合わせた京極高数・大内持世も3 日後に死去したことが記されています。また、末尾では同年9 月の「御徳興」(徳政令)や「大風」(台風)、病の流行などについてもふれ、前代未聞の年であったと嘆いています。經典の奥書にこのような世相が記されることは珍しく、貴重な史料といえます。また、嘉吉の乱に関する情報が当麻寺にも伝えられていたことがうかがえる史料としても興味深いものとなります。今回の当麻寺所蔵古經典調査の詳細については、『奈良文化財研究所紀要 2023』をご覧ください。(文化遺産部 橘 悠太)



当麻寺古經典と引き出し (一部)

【『根本説一切有部毘奈耶頌卷第五』(西28函8号) 奥書 翻刻文】
嘉吉元年^{辛酉}西閏九月廿四日写畢、五卷之内四卷ハ余筆也、一二三五ノ
四卷ハ如形書写、偏ニ為弘法利生現当之悉地并有縁壇主殊者
当寺、大勧進所中坊実秀 右筆惣導師^{ニテ}宗恵^{五八才}
同六月廿四日当將軍赤松殿^(足利義教)ニテ打畢、其外京極殿^(京極高数)・大智殿^(大内持世)三日斗後ニ打、同九月ヨリ
御徳興、前代未聞年也、次々大風吹諸大名打天下ニ人多病臥、以外事也、



奥書の写真は原寸大